平成31年9月更新

授業改善推進プラン（学力調査等分析） 数学 〔中学校第2～3学年〕

東大和市立第四中学校

学年等		項 目	内　容
平成30年度第2学年	平成30年10月	学習に関する生徒の課題	・A問題，B問題とも、領域1（数と式）の内容が全国平均を大きく（おおよそ－7）下回っていることから、文字式を使った計算に課題があることが伺える。 ・一方で、A問題，B問題とも、領域4（資料の活用）の内容では全国平均を上回っている。（Aが＋3.5，Bが＋0.3） ・観点毎にみると、全国平均を下回っているものが多いが、B問題で「数学的な技能」が全国平均を＋0.2上回っている。
		具体的な授業改善の方策	・毎授業ごと、授業時の初めに復習問題を解く。 ・地域未来塾等の学習内容を充実させる。また、家庭学習を定着させ、家庭への協力も促す。 ・習熟度別少人数授業を展開し、グループ活動を活発に行うなど言語活動・学び合いの機会の充実を図りつつ、個に応じたきめ細やかな指導を充実させて工夫を加味した指導を継続する。
	年度末	今年度の評価と次年度に向けての取組の方向性	・後半になるにつれて家庭学習の時間が増えていき、習熟度別少人数授業を通して個に応じた細やかな指導を継続した結果、小テストやプリント等からも学力の上昇傾向が見られる生徒が増加した。 3月の特別時間割に先取り学習を取り入れることで、それぞれの新しい進路でいいスタートを切ることができ、さらに成長してくれることを期待している。
平成31年度第3学年	平成31年10月	学習に関する生徒の課題	・「図形」に関する領域は全国平均と比べても6%近くうわまっていて、良い結果を得ることができた。 ・その他の領域に関しては、全国平均と比較して1%前後低いのみであり、以前と比べてその差がかなり接近している。 ・「知識・理解」に関する正答率が全国平均より高く、家庭学習等をふくめ学習の成果がしだいに結果として表れてきている。
		具体的な授業改善の方策	・基本的な計算練習の量を増やすことにより、「数と式」の領域に関する力を確実なものとしていく。 ・習熟度別少人数授業等を利用し、グループ活動を活発に行うなど言語活動・学び合いの機会の充実を図りつつ、個に応じたきめ細やかな指導を充実させて工夫を加味した指導を継続する。 ・地域未来塾等の学習内容の充実をはかると共に、家庭学習を一層定着させ、家庭への協力を促す。
	年度末	今年度の評価と次年度に向けての取組の方向性	